

『心、身体、精神』 -Sense through Mind, Body, and Spirit-

SOSAC_2 -時間- 渡辺聡

SOSAC シリーズ第 1 回目にあたる「SOSAC_1 -光-」では、アーティスト、安田千絵が捉えた動植物や光をカメラのフィルターを通して表現した作品を紹介した。「SOSAC_2 -時間-」では、SOSAC(外旭川サテライトクリニック)で縦 2m、幅 7m に及ぶ太平山の壁画を制作した渡辺聡氏の個展を開催します。

渡辺氏の作品はドット状の無数のシールをキャンバスに貼ることから始まる。シールの上からペインティングが施された後、シールは一枚ずつピンセットで別のキャンバスに移され、2 点組の作品となる。ドットで構成された作品は、知覚したイメージをデジタルに置換し、バーチャルに捉えたような感覚を与える。その場に流れる時間と記憶になった時間、そして普遍化されたその場所を新たな形で提示するメディアのようでもある。作品の基になっているのはポストカードやガイドブックに載せられたイメージ。その作品に存在する風景や建物は、その場に流れていた時間や色彩が停止され、記号として再構成されたかのような印象を与える。

私達はある場所を訪れた際、思い出や記憶を補完する媒体としてポストカードや写真を持ち帰ることがある。そのイメージは場所や対象が切り取られ、コンパクトにまとめられた風景、記録媒体としても働く。それは、第三者に訪れた場所や見たものについて端的に伝達するには非常に効率の良いツールかもしれないが、自分自身が感じたことやその場の質感、光の変化、温度やにおいを伝えるには、身体や脳、そして心の中に記憶された情報が必要となるだろう。

アーティストの感覚で認識、分解、再形成された風景を見て感じることも、やはり、鑑賞者一人一人の感覚というメディアによって様々な印象、記憶となる。作品と向き合い、鑑賞者自身の中に流れる時間の中で目の前にある風景と記憶にある風景が重ね合わされることで、どのような風景が創り出されるだろうか。今企画展では訪れる方とアーティスト、そして、作品に流れる時間をあらためて考える場を提案します。

フォーエバー現代美術館
チーフキュレーター 加藤 淳